地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その31

文：長谷川 隆夫さん

正中（まさなか）鉱泉に夢をのせて

正中鉱泉にあった「滴翠館」（明治36年撮影）

下安座集落入り口から橋を渡り500㍍ほど北東へ行くと、龍ヶ岳の山あいに正中鉱泉が自噴しています。三方を切り立った奇岩に囲まれている地域であります。

この鉱泉は『新編会津風土記』安座村の項に「温泉　村より寅の方五町にあり、微温にして入浴することあたはず」と記されています。

正中鉱泉に夢を掛けたのが、安座の先人たちでした。温泉開発は地域住民だけの利ではなく、広く町の振興と観光西会津の大いなる資源として寄与できるものであるとの思いから、昭和39年（1964）3月、自治区総会で温泉開発を進めることを決め、「安座温泉開発協議会」を結成しました。

主な事業資金としては、所有土地の売却と町補助金を見込んでいました。その後、町に資金助成の陳情と温泉調査を依頼して調査が行われ、「ボーリング掘削で自噴する」との報告があり、さらに温泉掘削許可を申請し、昭和40年4月に待望の許可証が交付されました。あわせて町の試掘の補助金も決定し、業者との掘削契約を結んで、着工式を実施しました。試掘の深さ50㍍では「湯温27.5度、無色澄明（ちょうめい）、pH8.7、湧出量30㍑/㍐、石膏泉」という分析結果が出ました。予定の200㍍の時点で湯温33度余になりましたが、この程度の湯温・湧出量では温泉経営に不十分と判断し、さらに掘り下げることを決め、町に再度の資金助成の陳情をしましたが、難色を示されました。このため、業者とは工事費の代替として湧出した際の分湯を認めるなど資金の捻出を試みましたが、業者の会社経営環境の悪化もあって工事は断念され、昭和45年（1970）1月に安座温泉開発協議会の解散を決定しました。温泉開発による地域振興の壮大な夢は、叶えることはできませんでした。

当時の関係者の無念を知らぬかのように、正中鉱泉は今も湧出しています。

今月の表紙

9月28日に行われたこゆりこども園運動会の「紅白リレー」から。園児が見せる天真爛漫な笑顔に癒やされつつ、リレーで見せる真剣な表情に頼もしさも感じました。（10ページに関連記事）

お知らせ

昨年12月から運用を開始した西会津町の公式フェイスブック「なじょな町、西会津。」と、町公式ホームページのQRコードを掲載します。

この機会にぜひご覧ください。

西会津町ホームページ Nishiaizu Town

なじょな町、西会津。 Nishiaizu Town

お詫びと訂正

10月号9ページの「小中学力調査の結果分析・活用を考える研修会を開催」の記事で、「小学4年生と中学2年生を対象に」とあるのは、「小学4年生から中学2年生を対象に」の誤りでした。お詫びして訂正します。

Nishiaizu
広報にしあいづ №733　令和元年11月号
発行／福島県西会津町　編集／企画情報課　TEL 0241-45-2211（代表）
ホームページ　https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/
PRINTED WITH SOY INK
この広報紙は、環境に優しい大豆油インキを使用しています。